

蝶の楽園

(蝶と私の物語)

第一話 蝶との出会い

大塚 博太



〈写真1〉 丸々と肥った幼虫



〈写真2〉 羽化してはばたきする蝶

それは何時頃のことだったのだろうか。果物の好きな私は連日オレンジ、グレープフルーツなどの柑橘類の果物を口にしていたが、食べ残した種を捨てるのはもったいないと、空いている鉢にまいてみたのが始まりなのでした。

その甘い匂いに誘われて、蝶が卵を産みにきたのであるとか、或る日、レモンの木の葉が次々に食いちぎられているの

に気づき、よく見ると丸々とよく太った蝶の幼虫を見つけたのです(写真1)。

いつとはなしに姿を消し、蛹にでもなったのかと思っていた在る日、羽化して羽ばたきをしている蝶を見つけたのです。

始めのうちには、まだ羽根はしっとりとなれていましたが、太陽の陽に当たり二、三時間もすると、美



〈写真3〉 飛び立つてく蝶

っていったのですが……（写真3）、私は面白いことに気づいたのです。それは、どの蝶も私を呼び出すかのように、体を窓ガラスや水槽の金網等に繰り返しぶつけるようにして音を立て、私がベランダに出ると、あたかも別れの挨拶を終え

しい模様が浮かび上がり写真2）、その輝くような美しい羽根を一杯にひろげ、私に挨拶するかのよう、何度羽ばたきを繰り返し、やがて大空に飛び立つていったのでした。

その後、何羽かの蝶が羽化して飛び立

て安心したかのように、大空に向かって飛び去っていったのです。

特に二羽の蝶は、私がベランダに出るとベランダの上空を一周して飛び立っていったのですが、別れを惜しむかのように、また姿を見せ、もう一回ベランダの上空を一周してから大空に姿を消したのでした。

私は思うのです。犬や猫の哺乳類の世界と同じように、愛情をもって接していれば、たとえ言葉は通じなくとも、昆虫達にも人の気持ちが分かり、またそれに報いようとするしぐさが私には強く感じられたのでした。

蝶さん達よ

また来年も飛んできておくれ

沢山の友達も一緒につれてね

ミカンの種を沢山まいておくからね

そしてこのベランダを

あなた達のすばらしい楽園に

作り変えてゆこうよね